

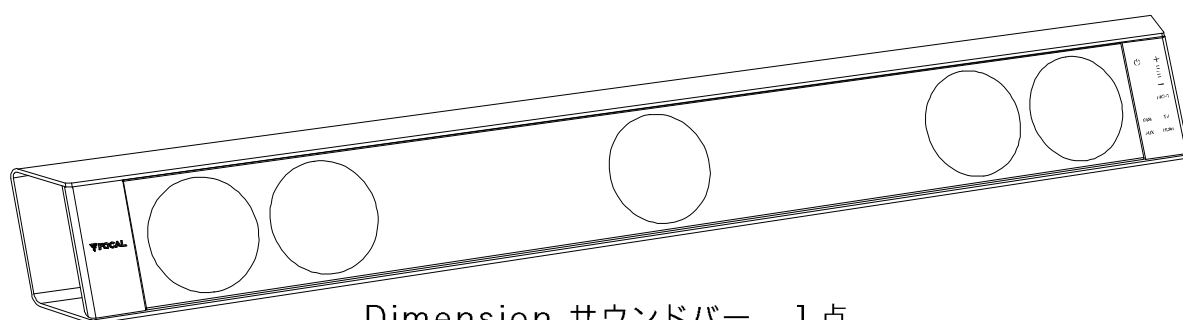
### 要約

	ページ		ページ
1. 安全上のご注意	5	8. 使い方と機能	73
2. 要約	54	8.1. CEC(家電制御)機能	73
3. 添付品	55	8.2. 電源モード	73
4. 製品紹介	56	8.3. テレビやオーディオ/ビデオ デバイスの音声フォーマットの設定	73
4.1. ホームシアターサラウンド	56	8.4. 音量の調節	73
4.2. ユーザインタフェース	56	8.5. インプットセレクター	74
4.3. 接続パネル	57	8.6. ナイトモード	74
4.4. リモコン	58	8.7. 低音レベルの調整	74
5. 位置決めと設置	59	8.8. オーディオ/ビデオ オの同期化(リップシンク)	74
5.1. Dimensionの位置決め	59	8.9. ライト機能	75
5.2. テレビキャビネットへの設置	60	9. トラブルシューティング	75-76
5.3. 壁への取り付け	61	10. 技術仕様	77
6. 設定セレクターの調節	62		
6.1. 聴取位置の調整	62		
6.2. 位置の調整	63		
6.3. 部屋の音響への適応	64		
6.4. サブウーファースの調整	65		
7. 接続	66		
7.1. お使いのテレビへのDimensionの接続	66		
7.2. HDMI™ Inの接続	67		
7.3. 接続例	68		
7.3.1. 接続例1	68		
7.3.2. 接続例2	69		
7.3.3. 接続例3	70		
7.3.4. 接続例4	71		
7.4. サブウーファースの接続	72		

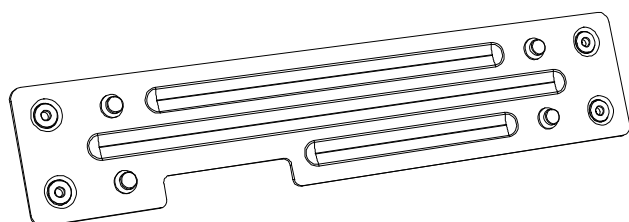
このたびは、Focal の製品をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。弊社の Hi-Fiサウンドの世界へようこそ。Focal は30年以上にわたってハイエンドのスピーカーユニット、スピーカーシステムの設計・開発・製造を行っており、最近ではヘッドホンにも着手しています。弊社の基本的価値観であるイノベーション、伝統、性能、喜びが、「Spirit of Sound」を特徴づけています。弊社の目標はただ一つ、どこにいても、豊かで本格的なサウンドを求める皆様の心を惹きつけること。

この理念を念頭に置いて設計されたのがDimensionサウンドバー。音響分野のノウハウを従来のハイファイスピーカー以外の用途に応用し、自然で、ダイナミックかつ解像度の高い、臨場感あふれるサウンドにより、シネフィルたちを感動させることを目指します。

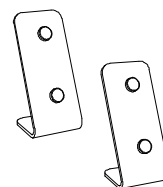
### 3. 添付品



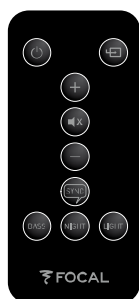
Dimension サウンドバー 1点



壁取り付け用金具 1点



スタンド 2点



リモコン 1点



電源ユニット 1点  
電源ケーブル 1点



ユーザーマニュアル 1点

### 4. 製品紹介

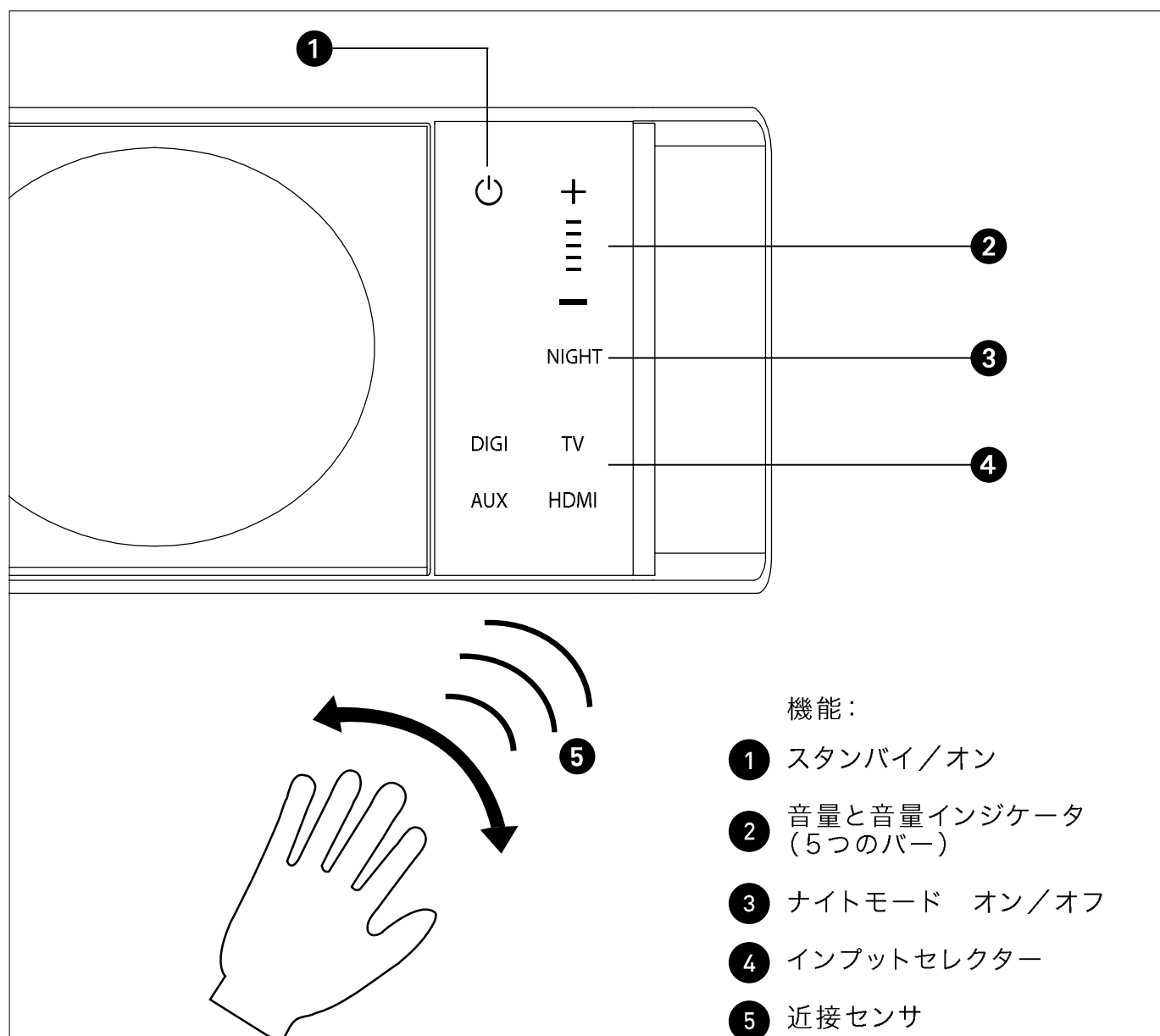
#### 4.1. ホームシアターサラウンド

Dimension は、ドルビーデジタル® や DTS® と行ったサラウンドフォーマットに対応しています。さらにDimensionには、あらゆるステレオ信号を真のサラウンドサウンドに変化させる仮想化アルゴリズムが組み込まれています。

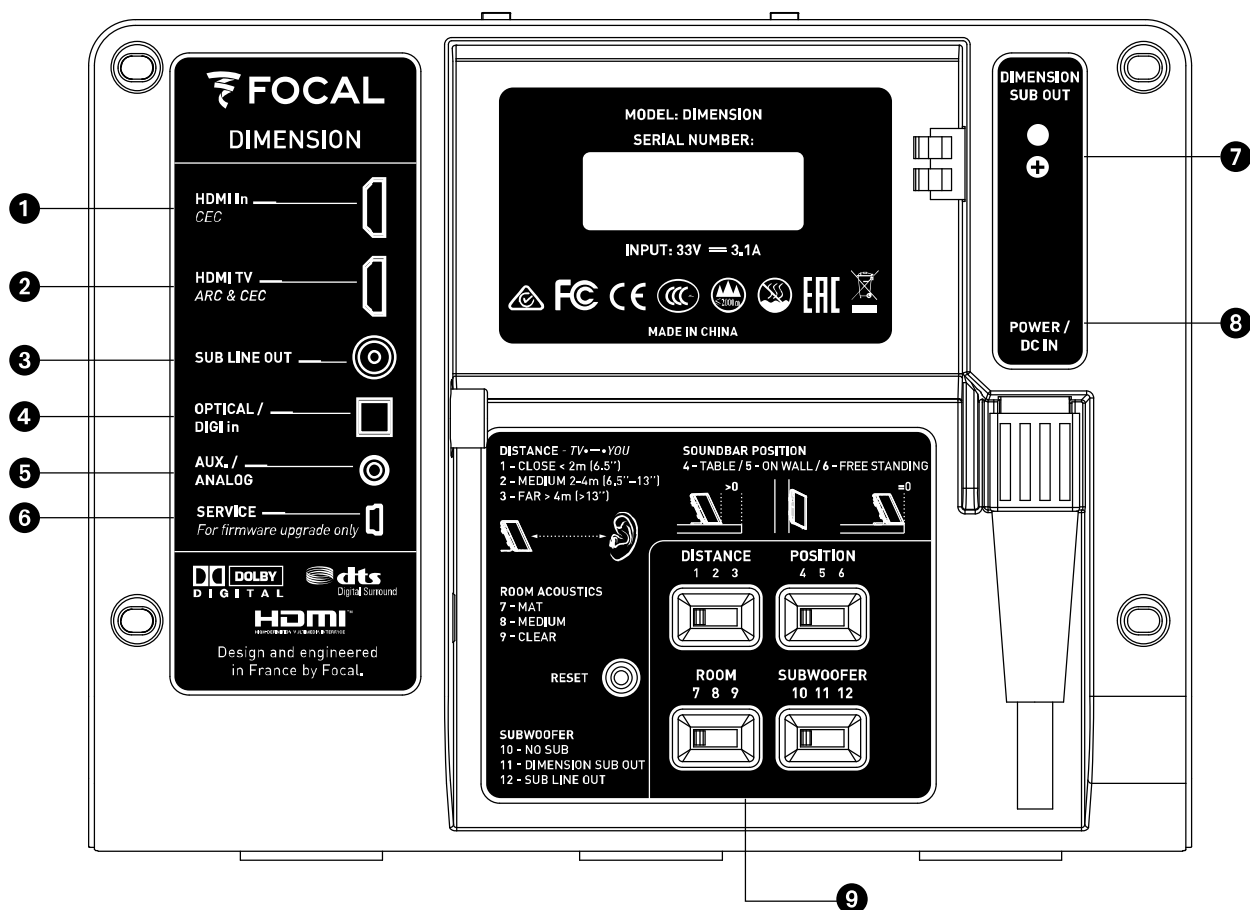


#### 4.2. ユーザインタフェース

Dimensionは、音量の調節や入力端子・リスニングモードの選択ができるタッチパネルディスプレイを備えています。ホームシアター鑑賞中、Dimensionのディスプレイはオフ状態になりますが、近接センサを搭載しているので近づいたり、リモコンを使用したりすると自動的にスイッチが入ります。



### 4.3. 接続パネル



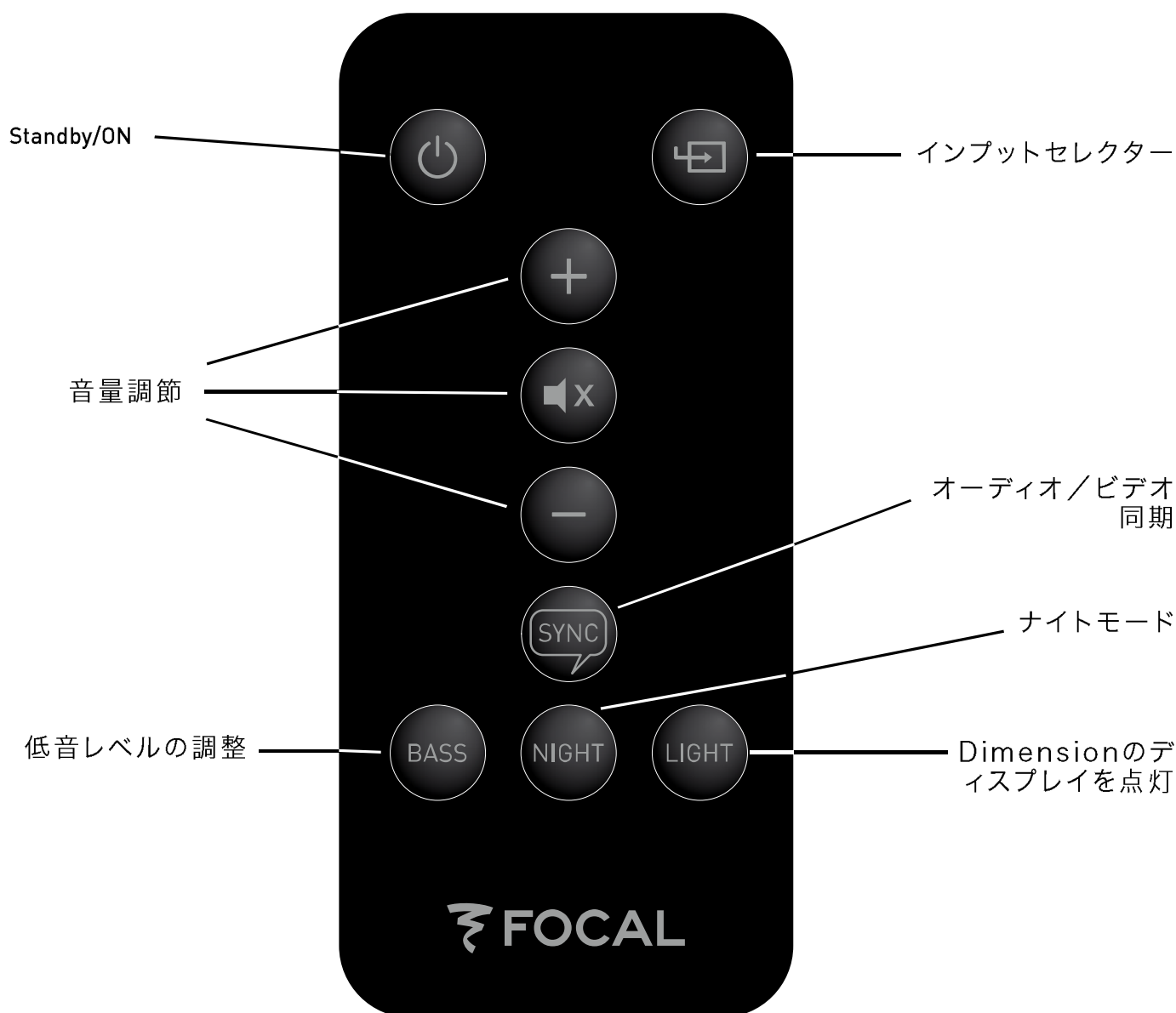
- 1 HDMI™ In: HDMI™ インタフェースを搭載するデバイス(ブルーレイプレーヤー/DVDプレーヤー/ゲーム専用機/セットトップボックス)の接続用
- 2 HDMI™ TV: テレビへの接続用。ARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載し、テレビからの音声信号の受信、ならびに映像信号のテレビへの送信の双方向伝送が可能です。
- 3 SUB LINE OUT: 外付け型アクティブサブウーファーを接続するためのRCAアナログ出力
- 4 OPTICAL/DIGI In: に対応していないテレビの光デジタル音声出力への接続用。その他、光デジタル出力端子を搭載するあらゆるデバイスを接続することができます。
- 5 AUX / ANALOG: アナログ出力端子を搭載するデバイス(デジタルオーディオプレーヤー、タブレットPC、コンピュータ等)への接続用
- 6 SERVICE: システムの更新が必要な際にアフターサービスが使用する入力端子
- 7 DIMENSION SUB OUT: 外形寸法サブウーファー専用の出力端子
- 8 POWER / DC IN: Dimensionを電源に接続
- 9 設定セレクター: 部屋の設置条件や音響特性に応じてDimensionの音声を調整できる4つのセレクター。調節方法に関しては、「設定セレクターの調節」(62ページ)をご参照ください。

### 4.4. リモコン

Dimensionは、家電制御(CEC)プロトコルを搭載しています。お使いのテレビがCEC機能を搭載している場合は、この機能を有効にすることにより、テレビのリモコンでサウンドバーの操作が可能になります。なおCECプロトコルの名称は、テレビのメーカーにより異なる場合があります。

汎用リモコンや学習リモコンは、プログラムすることによりDimensionの操作が可能になります。赤外線リモコンのコマンドコードに関しては、Focal ウェブサイト([www.focal.com](http://www.focal.com))上のDimension サウンドバー のページをご参照ください。

お使いのテレビがCEC機能を搭載していない場合、または汎用リモコンをお使いにならない場合、Dimension にはリモコンが同梱されています。このリモコンには、サウンドバーのタッチパネルと同じ操作ボタンが搭載されています。

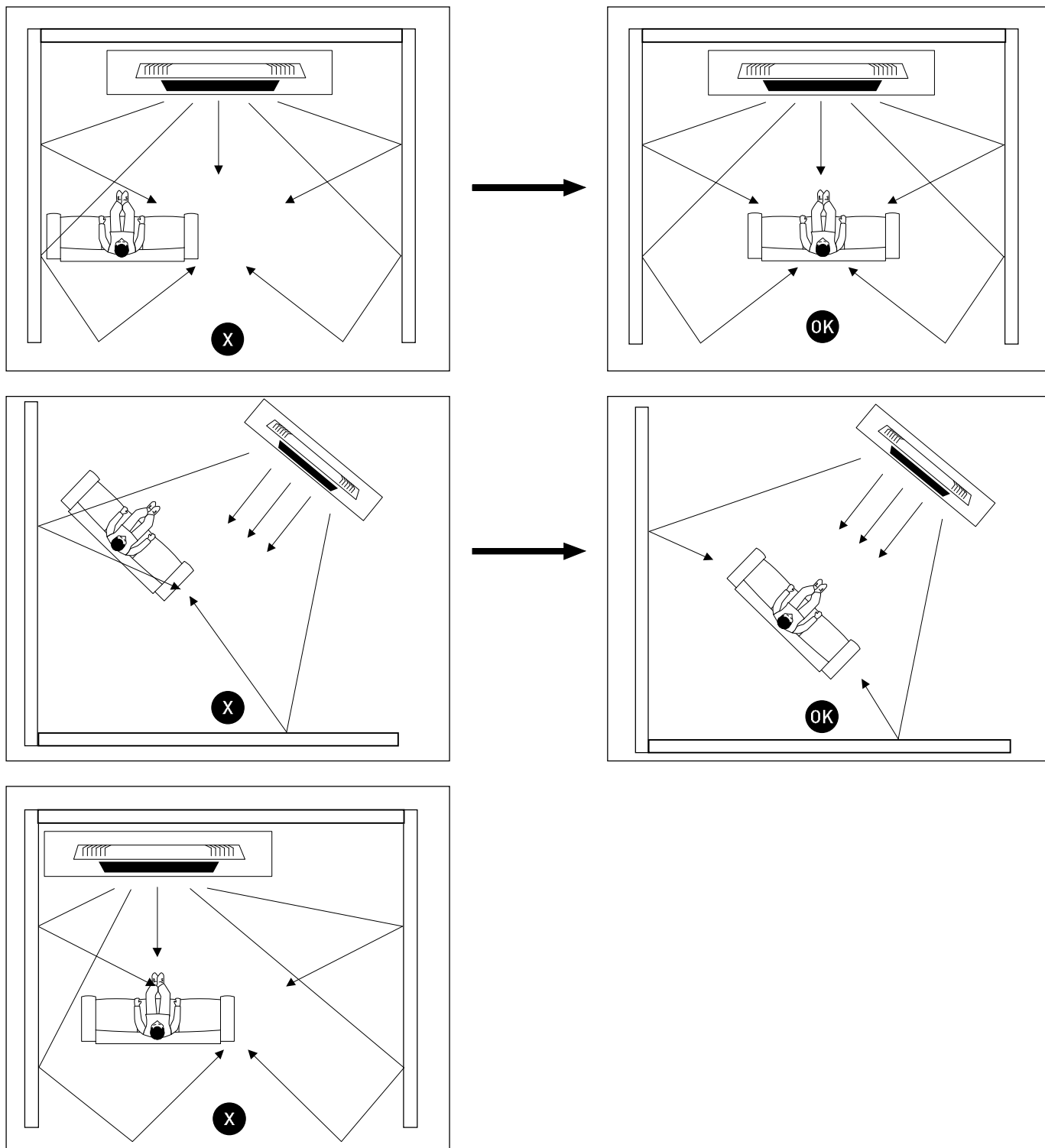


リモコンを初めてお使いになる前に、電池収納部から電気絶縁用のプラスチックフィルムを取り除いてください。交換の際には、電池収納部を開いて同じタイプの電池(CR2025)と交換してください。

## 5. 位置決めと設置

### 5.1. Dimensionの位置決め

サラウンド効果を十分お楽しみいただくには、聴取位置の正面、壁からの反響が左右対称になる位置にサウンドバーを配置することをお勧めします。推奨される配置例は、次の図の通りです。

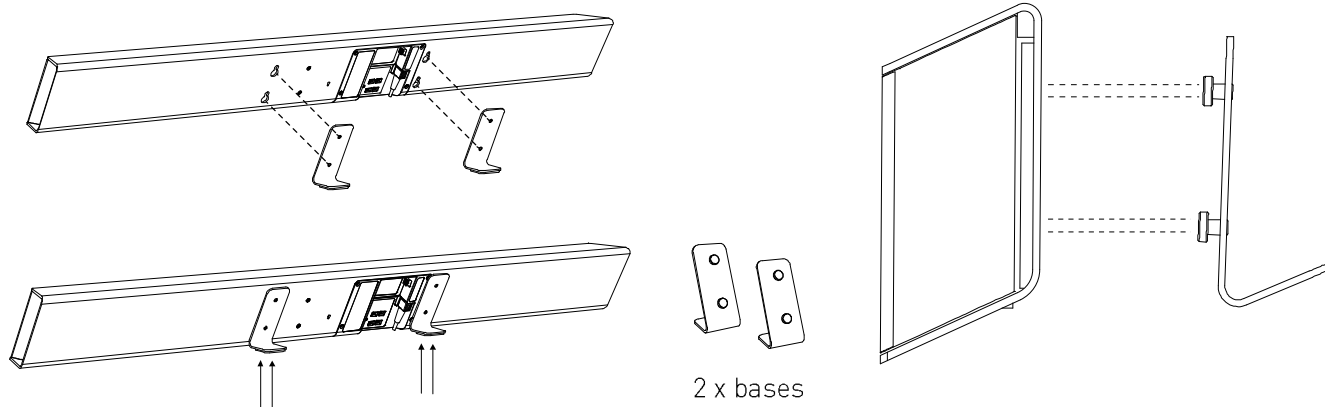


# DIMENSION

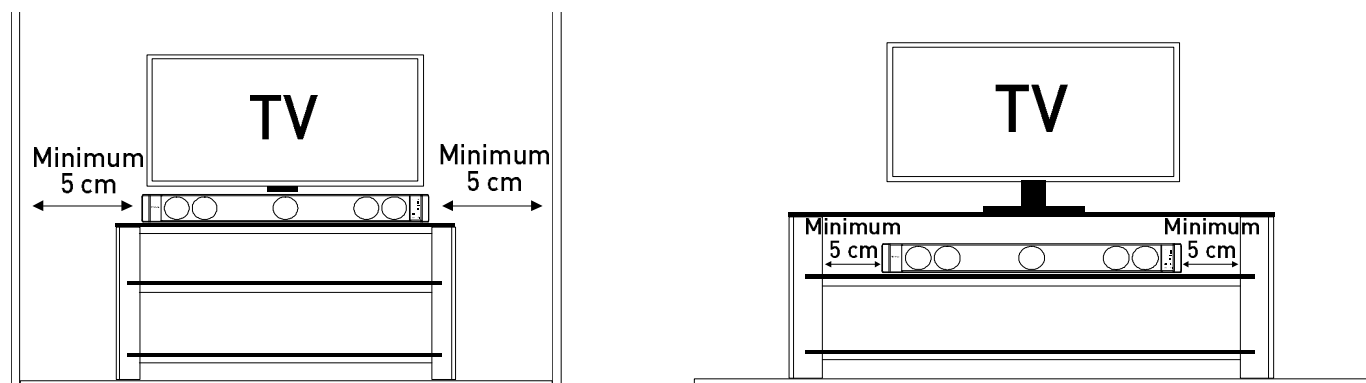
## ユーザーマニュアル

### 5.2. テレビキャビネットへの設置

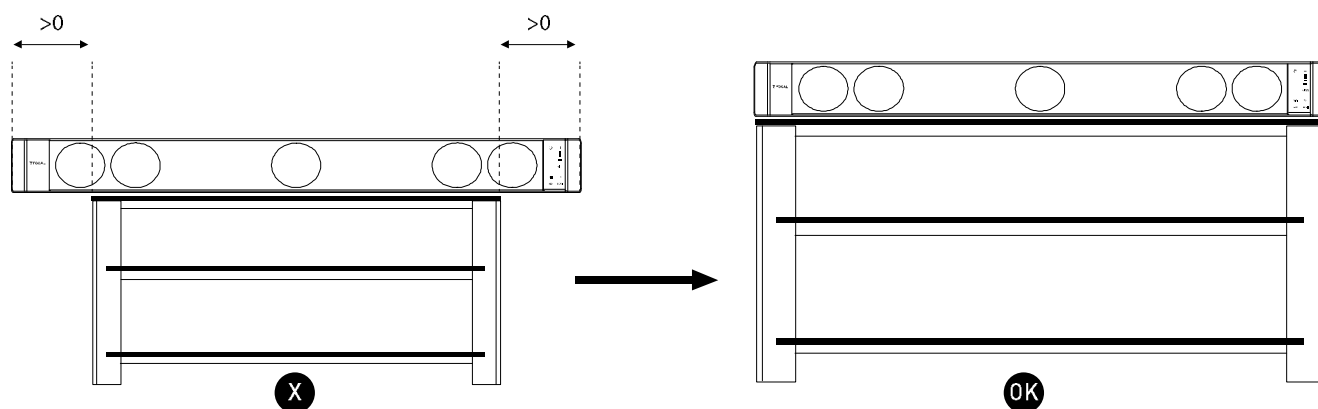
テレビキャビネットに設置する前に、次の図の通り、必ずDimensionにスタンドを取り付けてください。



Dimensionの両端は、障害物（壁、家具の板、仕切り等）から5センチ以上離れていなければなりません。



サウンドバーに安定性を持たせて落下を防ぐため、Dimensionがキャビネットに完全に乗るような配置をお勧めします。



背面の設定セレクターが適切な設定になっていることを確認してください。Dimensionの正面がキャビネットの端に触れている場合は、「POSITION」セレクターを「6 - FREE STANDING」にセットします。その反対の場合は、「POSITION」セレクターを「4 - TABLE」にセットします。セレクターの設定に関する詳細は、「設定セレクターの調節」をご参照ください（62ページ）。

# DIMENSION

## ユーザーマニュアル

### 5.3. 壁への取り付け

Dimensionの両端は、障害物(壁、家具の板、仕切り等)から5センチ以上離れていなければなりません。

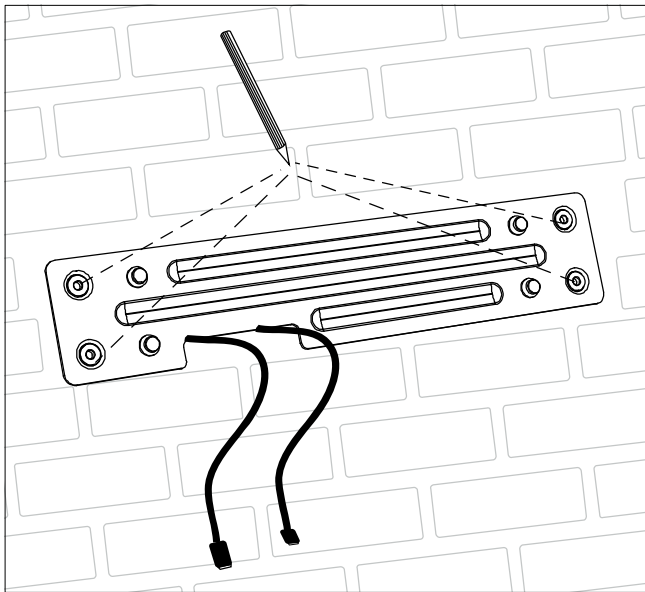
Dimensionはその高さに応じて、お使いのテレビの上または下に設置することができます。

背面の設定セレクターが適切な設定になっていることを確認してください:

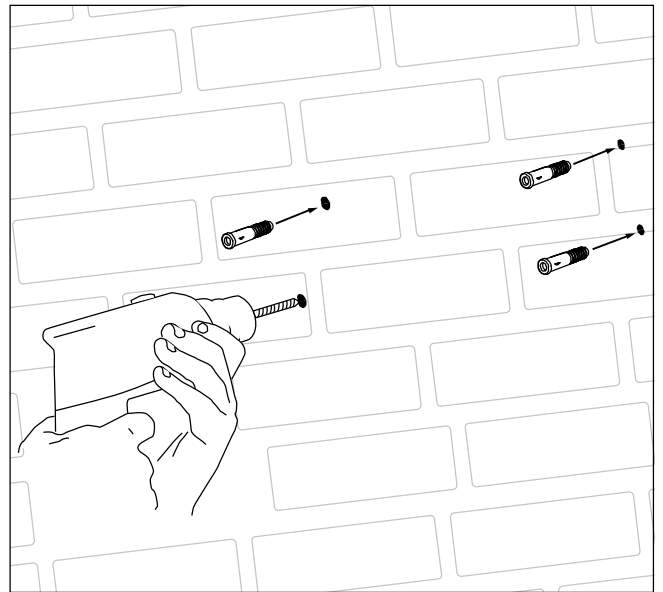
「POSITION」を「5 - ON WALL」に設定。

セレクターの設定に関する詳細は、「設定セレクターの調節」(62ページ)をご参照ください。

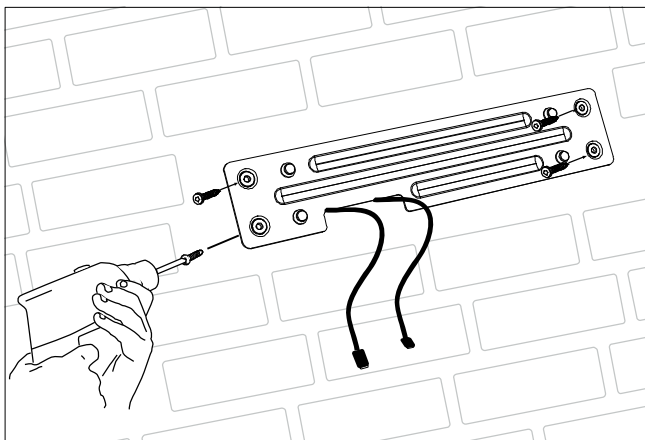
Dimensionには壁取り付けキットが同梱されています。以下の手順に従い設置してください。



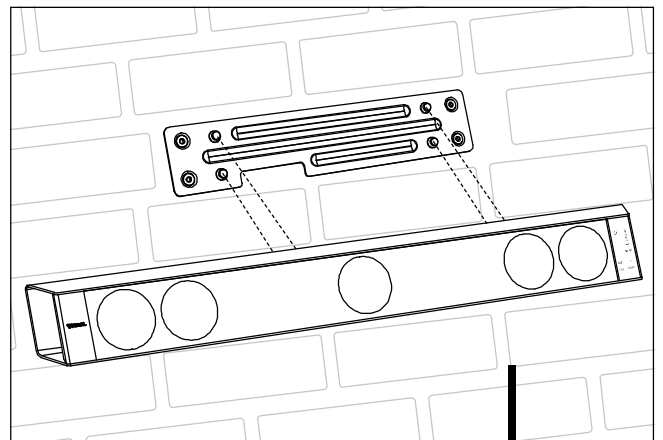
1) 取り付け穴の位置を決定します。Dimensionが水平となるように水準器をお使いください。壁取り付け用金具の決められた場所にケーブルを通します。



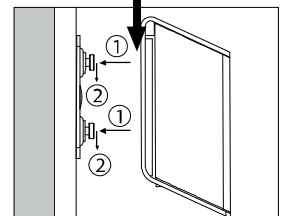
2) 印をつけた個所に穴を開け、カールプラグを差し込みます。カールプラグは壁の材質に適したものでなければなりません。壁、カールプラグ、ネジは、Dimensionの重量(5.5kg)に耐えるものでなければなりません。



3) 壁取り付け用金具を壁に固定します。



4) ケーブルを接続し、サウンドバーを壁取り付け用金具の正面に置き、Dimensionを4つのカールプラグにつなぎ合わせます。





## 6. 設定セレクターの調節

コネクタパネル上の4つのセレクターを使い、リスニングルームやニーズに応じて、Dimensionの音を調整します。これらの設定は、サウンドバーを最終的に取り付ける前にしておかなければなりません。

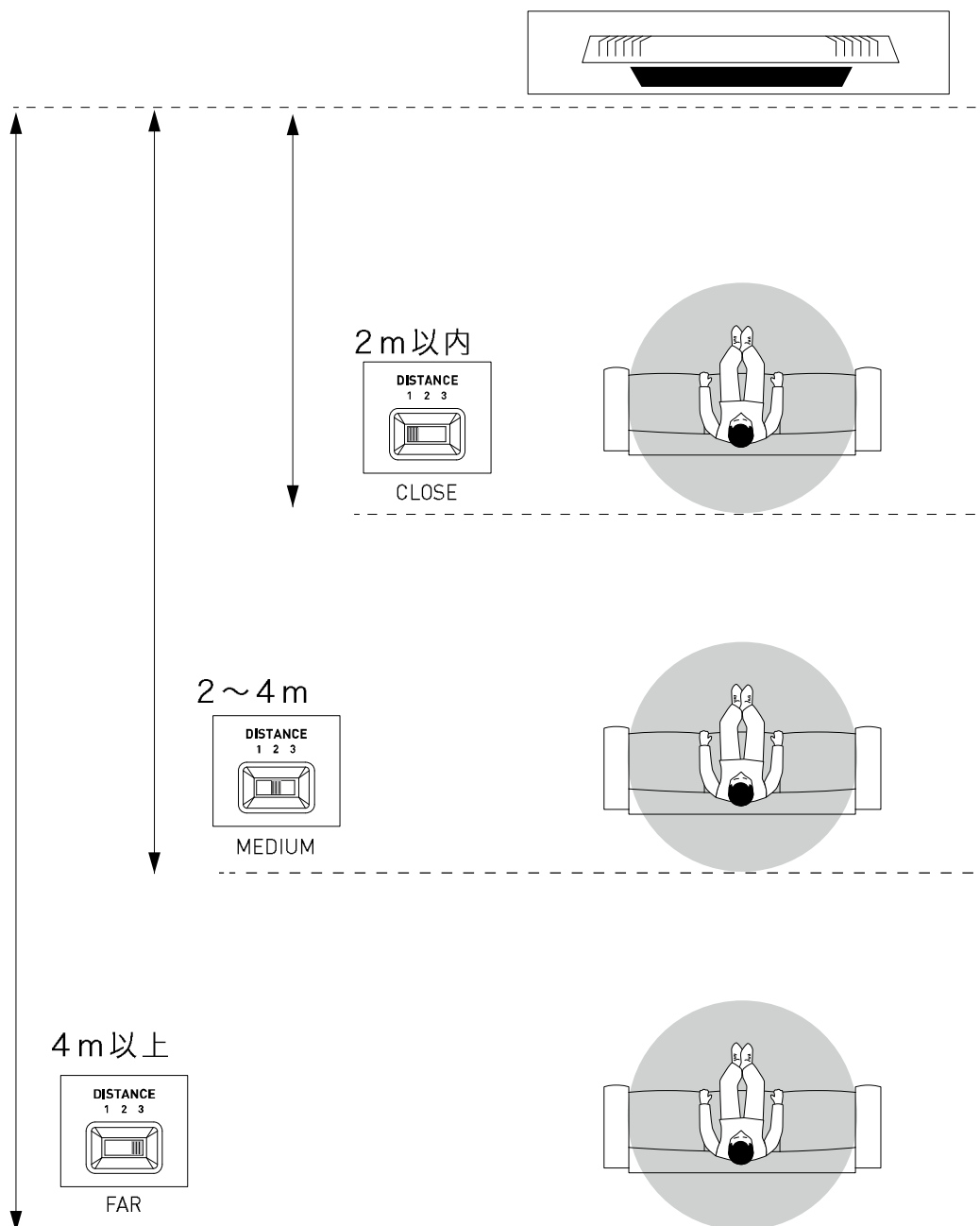
### 6.1. 聴取位置の調整

このセレクターを用いると、聴取位置とサウンドバーとの距離に応じて、音を調整することができます。

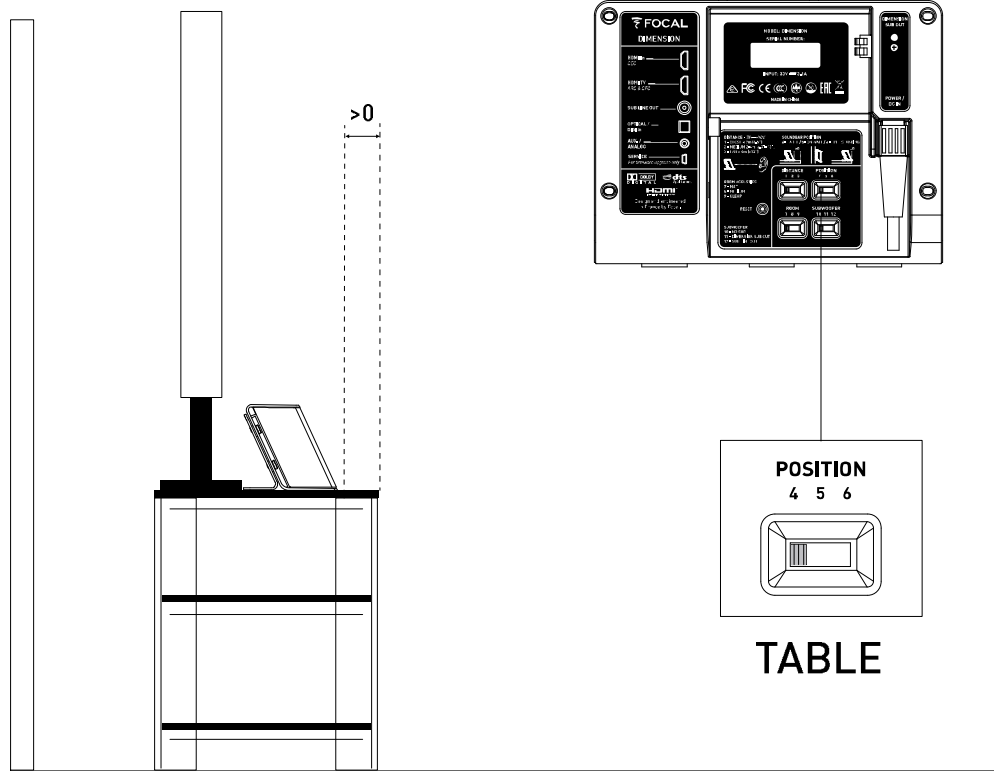
Dimensionが聴取位置から2 m以内にある場合は、「DISTANCE」セレクターを「1 - CLOSE」にセットします。

Dimensionが聴取位置から2 ~ 4 m離れている場合は、「DISTANCE」セレクターを「2 - MEDIUM」にセットします。

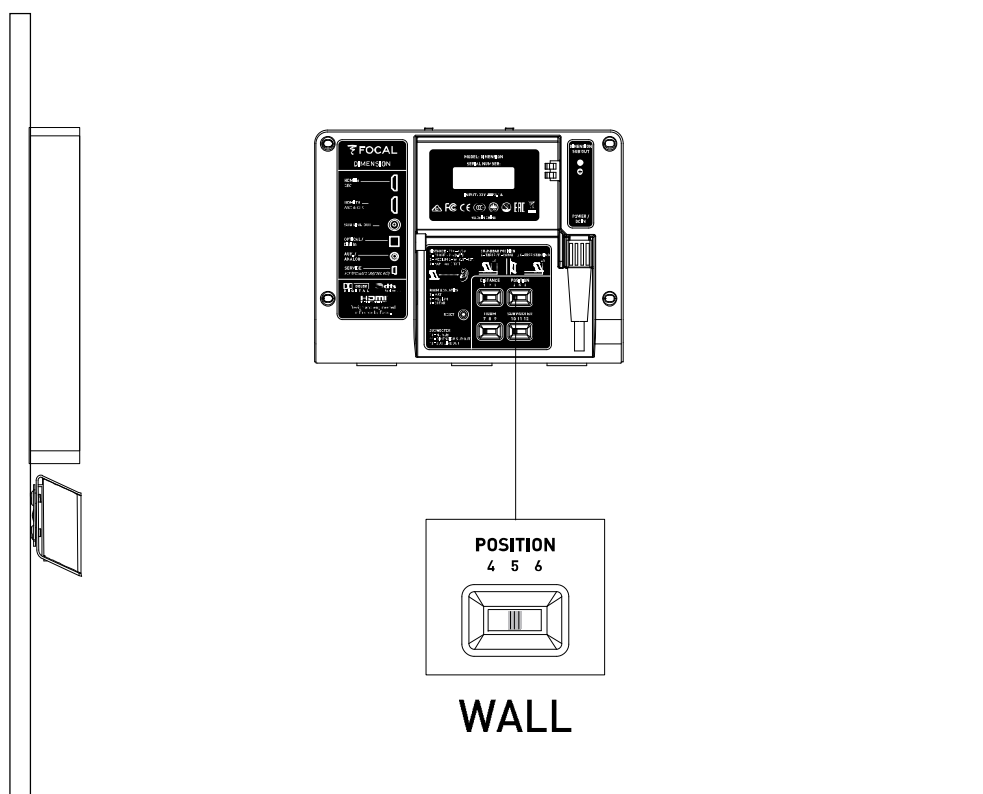
Dimensionが聴取位置から4 m以上離れている場合は、「DISTANCE」セレクターを「3 - FAR」にセットします。



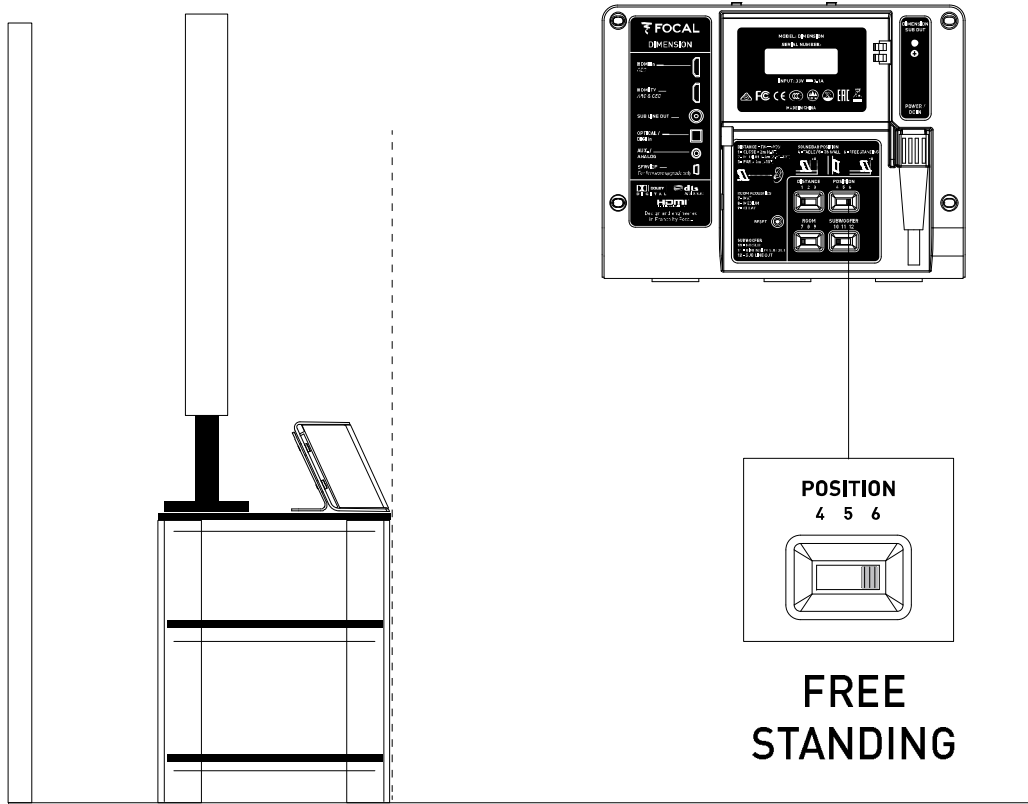
## 6.2. 位置の調整



Dimensionが家具の上に置かれており、その正面が家具の端に触れていない場合は、「POSITION」セレクターを「x4 - TABLE」にセットします。



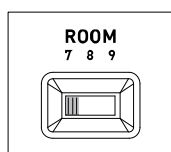
Dimensionが壁に取り付けられている場合は、「POSITION」セレクターを「5 - ON WALL」にセットします。



Dimensionが家具の上に置かれており、その正面が家具の端に触れている場合は、「POSITION」セレクターを「6 - FREE STANDING」にセットします。

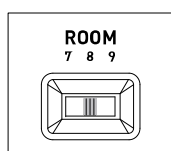
### 6.3. 部屋の音響への適応

サラウンド効果のクオリティは、リスニングルームの音響効果とその部屋を構成する資材の反射特性に依存します。



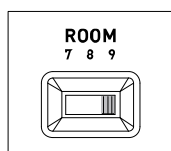
MAT

リスニングルームの壁と床の反射が少ない場合（布で覆われた壁、カーテン、カーペット、絨毯）は、「ROOM ACOUSTICS」セレクターを「7 - MAT」にセットします。



MEDIUM

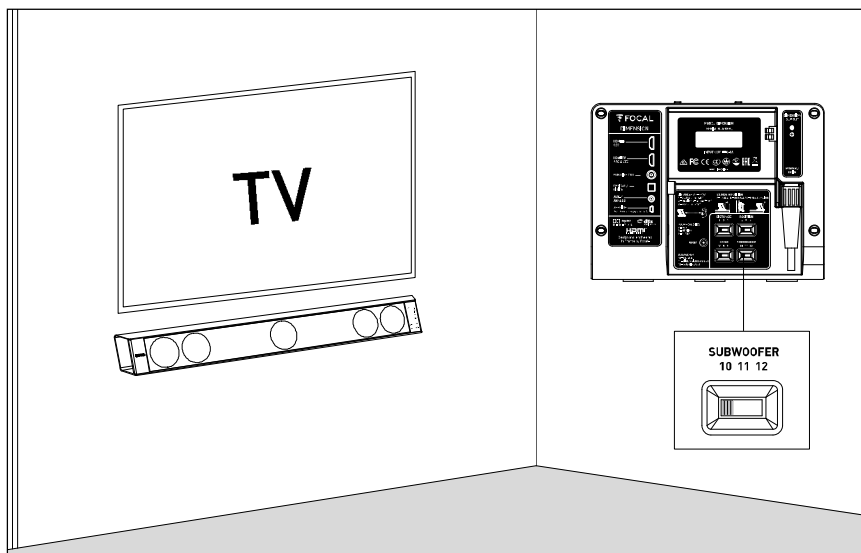
リスニングルームの壁と床の反射が平均程度の場合（漆喰または空洞レンガの壁、様々な家具、むき出しのフローリング）は、「ROOM ACOUSTICS」セレクターを「8 - MEDIUM」にセットします。



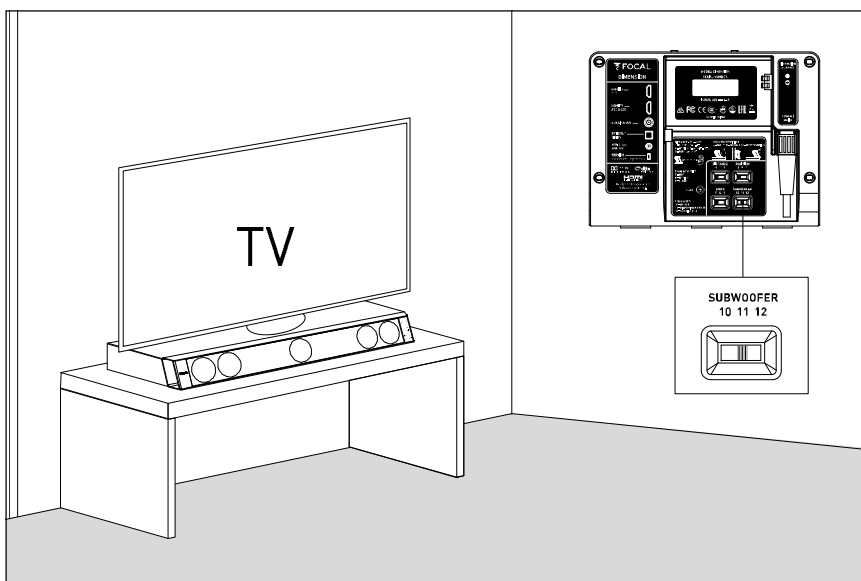
CLEAR

リスニングルームの壁と床の反射が多い場合（大きなガラス面のある壁、ソリッドレンガ、タイル張りの床）は、「ROOM ACOUSTICS」セレクターを「9 - CLEAR」にセットします。

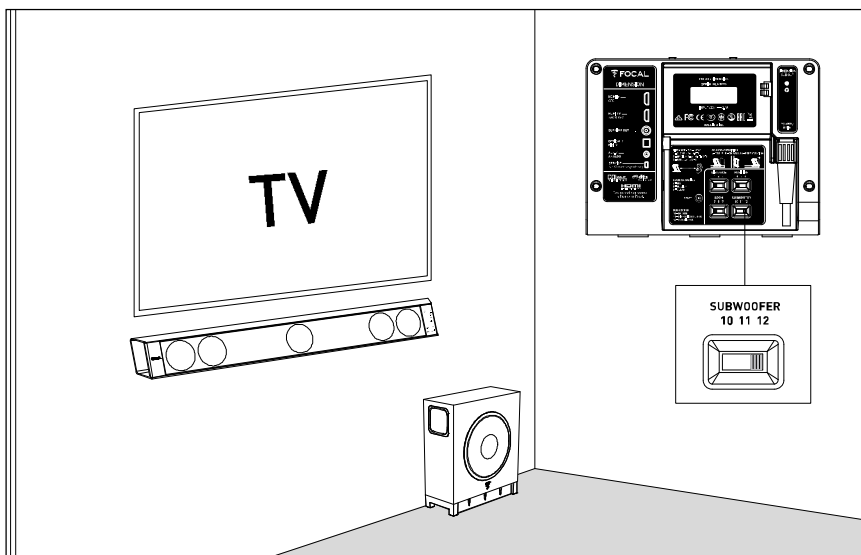
## 6.4. サブウーファーの調整



Dimensionをサブウーファーなしでお使いの場合は、「SUBWOOFER」セレクターを「10 - NO SUB」にセットします。



Dimensionを専用のDimension Subwooferと共にお使いになる場合は、「SUBWOOFER」セレクターを「11 - DIMENSION SUBWOOFER OUT」にセットします。

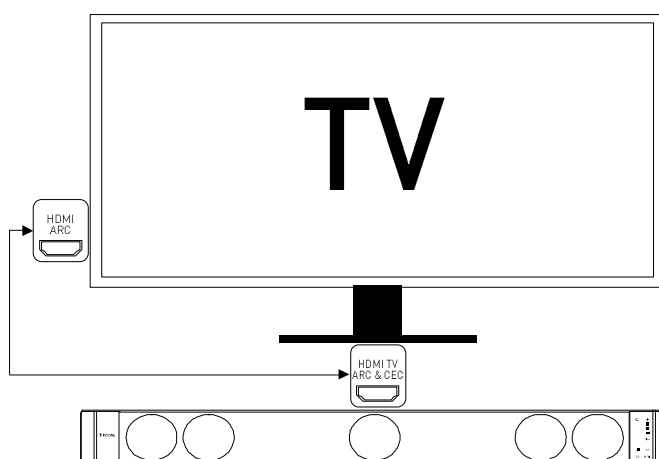


Dimensionを「SUB LINE OUT」出力端子に接続したアクティブサブウーファーと共にお使いになる場合は、「SUBWOOFER」セレクターを「12 - SUB LINE OUT」にセットします。

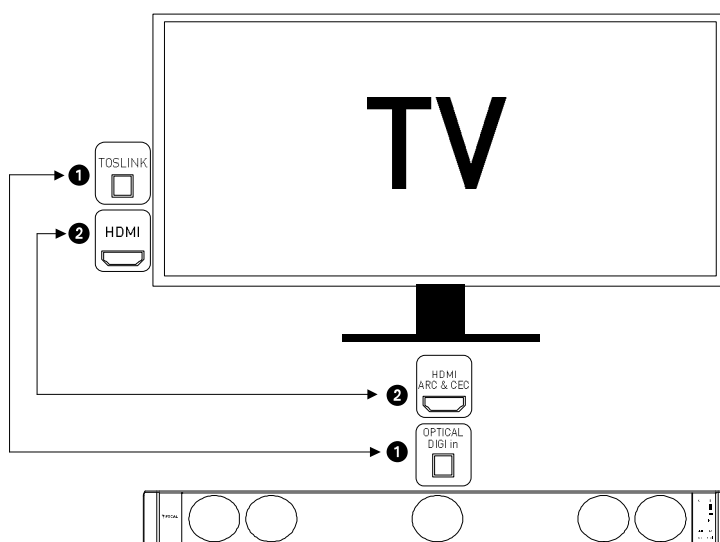
### 7. 接続

Dimensionは、HDMI™ ARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載しています。この機能により、お使いのテレビがHDMI™ ARC(オーディオリターンチャンネル)出力端子を装備している場合は、テレビからの音声信号の受信が可能です。二つのHDMI™ ARCが接続されると、Dimensionはテレビの音声や、テレビに接続された他の任意のデバイス(ブルーレイ、DVD、セットトップボックス)の音声を再生します。ただしお使いのテレビのセットアップメニューで、オーディオリターンチャンネル機能が有効になっていることを確認してください。Dimensionは標準HDMI™入力端子も搭載しており、マルチチャンネルオーディオフォーマット(5.1ch、ドルビーデジタル、DTSサラウンド)でエンコードされたムービーの再生デバイスを接続することが可能です。それにより、オーディオ/ビデオプレーヤーのクオリティを最大限に活用できます。Dimensionの詳しい接続方法を次にご説明いたします。

#### 7.1. お使いのテレビへのDimensionの接続



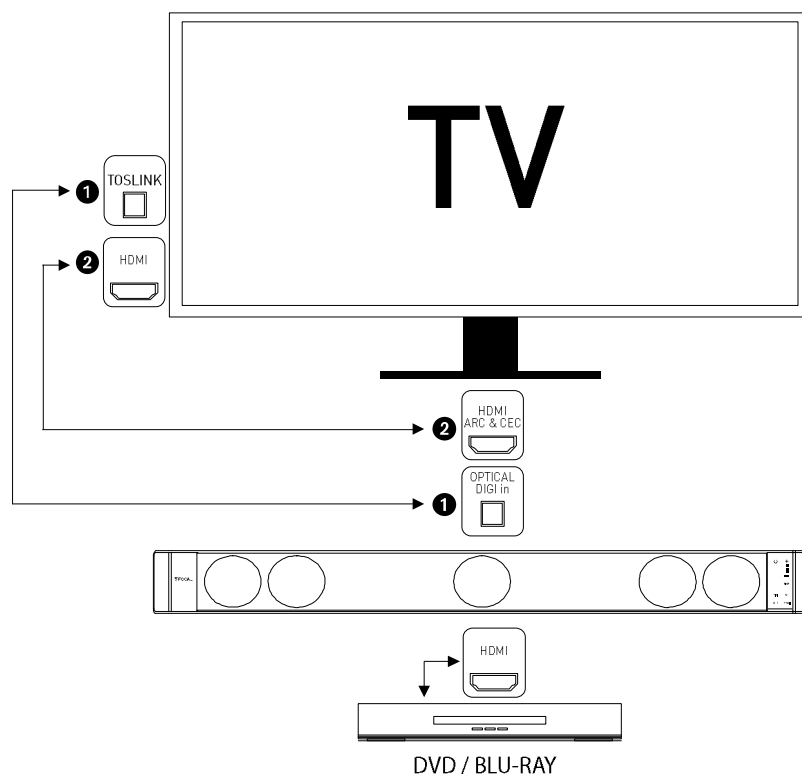
DimensionのHDMI™ TV 端子とお使いのテレビのHDMI™ 端子を接続します。テレビがARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載している場合は、テレビのHDMI™ ARC端子を使います。ARC機能により、テレビ、またはテレビに接続されているあらゆるデバイスの音声信号をDimensionに伝送することが可能です。



お使いのテレビがARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載していない場合は、テレビの光デジタル音声出力(Toslink)をDimensionのOPTICAL/DIGI In入力端子に接続します。いずれの場合も、DimensionのHDMI™ TV入力端子をテレビのHDMI™ TV入力端子に接続してください。この接続により、DimensionのHDMI™ In入力端子を通して、Dimensionからの映像信号がテレビに伝送されます。

### 7.2. HDMI™ Inの接続

HDMI™ In入力端子を5.1chでエンコードされたムービーの再生デバイスや、より一般的なブルーレイディスク/DVD再生デバイスに接続します。この入力端子はテレビを介さず、オーディオ/ビデオプレーヤーから直接受音するため、音声品質を失うことはありません。



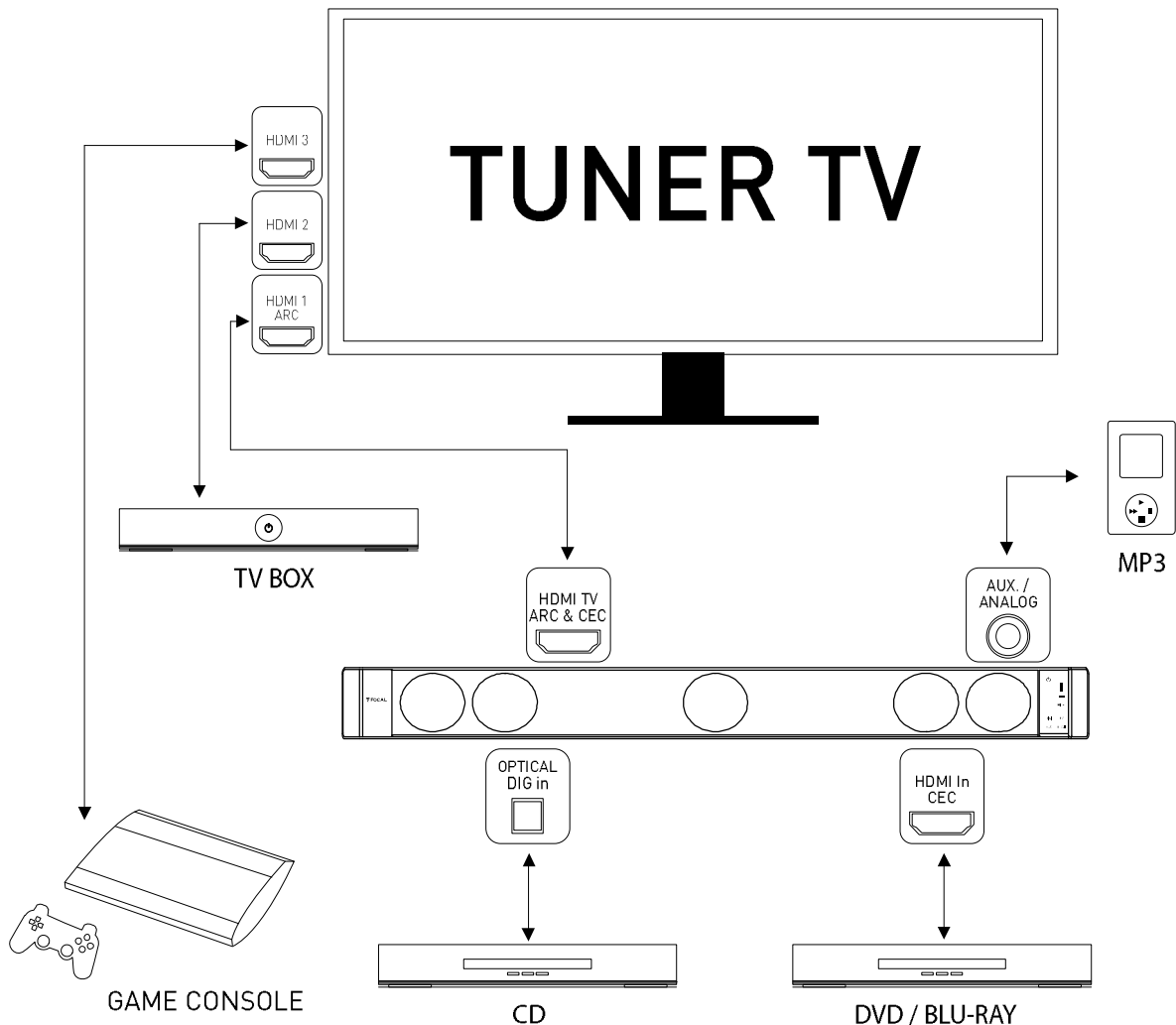
Dimensionに直接複数のオーディオ/ビデオデバイスを接続したい場合は、HDMI™切替器をお買い求めいただくと良いでしょう。切替器は複数のHDMI™入力と一つのHDMI™出力を装備しており、Dimensionに接続することができます。

### 7.3. 接続例

ここでは最も一般的な接続例をご紹介します。最高のサラウンドサウンドをお楽しみいただくためには、サラウンドコンテンツ(5.1ch以上)再生プレーヤーをHDMI™ Inに接続することが重要です。以下は、HDMI™ ARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載したテレビを用いた例です。お使いのテレビがこの機能を搭載していない場合は、HDMI™ケーブルに加えて、テレビの光デジタル音声出力端子(Toslink)をDimensionのDIGI In入力端子につないでください。

#### 7.3.1. 接続例1

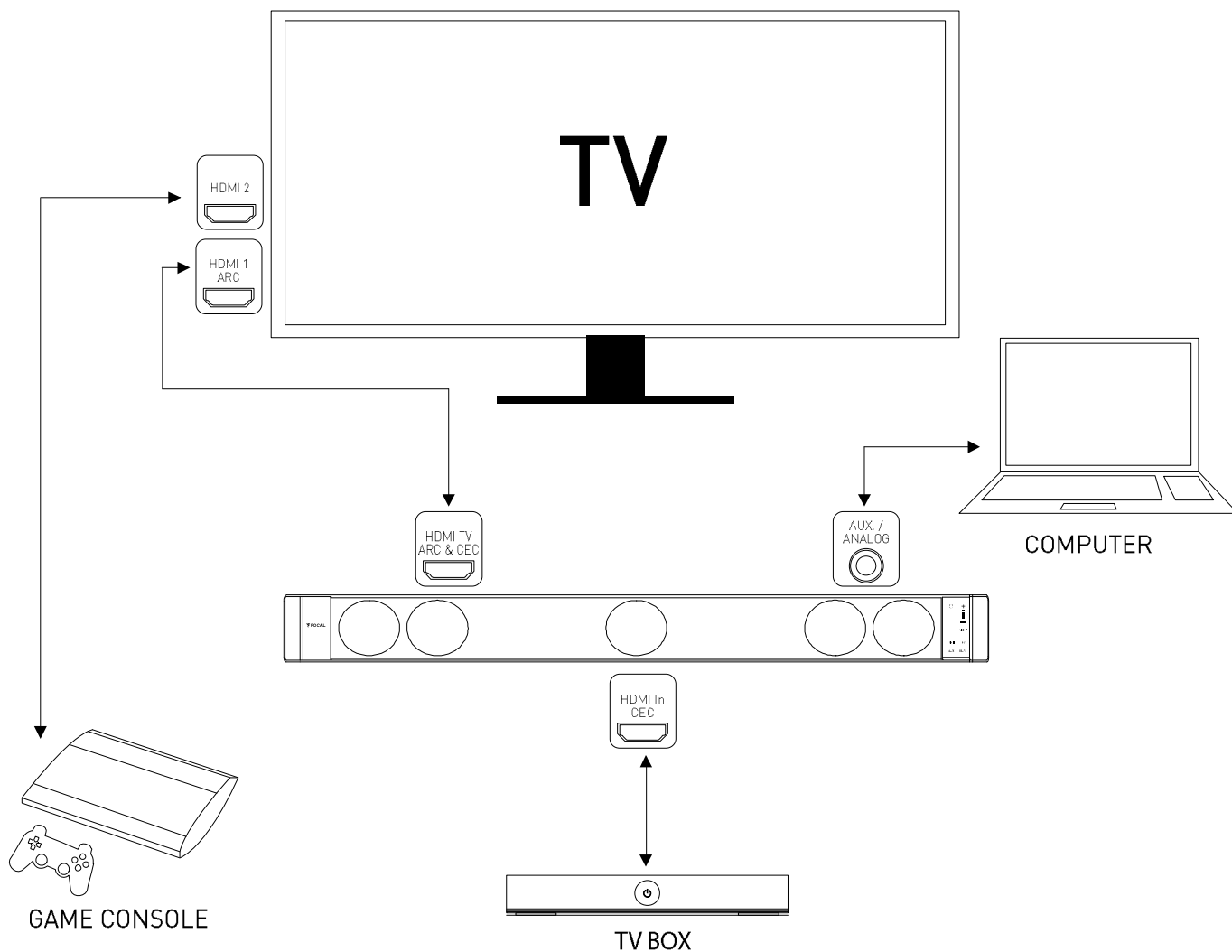
主にブルーレイプレーヤーでマルチチャンネルオーディオ/ビデオコンテンツをご覧になる場合は、ブルーレイプレーヤーをDimensionのHDMI™ In入力端子に接続します。次の図のように、Dimensionはその他のデバイスも接続することが可能です。



TVチューナー、セットトップボックス、ゲーム機の音声を再生する場合は、DimensionのTV 入力端子を使用します。ブルーレイプレーヤーの音声を再生する場合は、DimensionのHDMI™ In 入力端子を使用します。CDプレーヤーの音声を再生する場合は、DimensionのDIGI In入力端子を使用します。同様に、デジタルオーディオプレーヤーの音声を再生する場合は、AUX入力端子を使用します。

### 7.3.2. 接続例2

主にセットトップボックスでマルチチャンネルオーディオ/ビデオコンテンツをご覧になる場合は、セットトップボックスをDimensionのHDMI™ In入力端子に接続します。次の図のように、Dimensionはその他のデバイスも接続することが可能です。

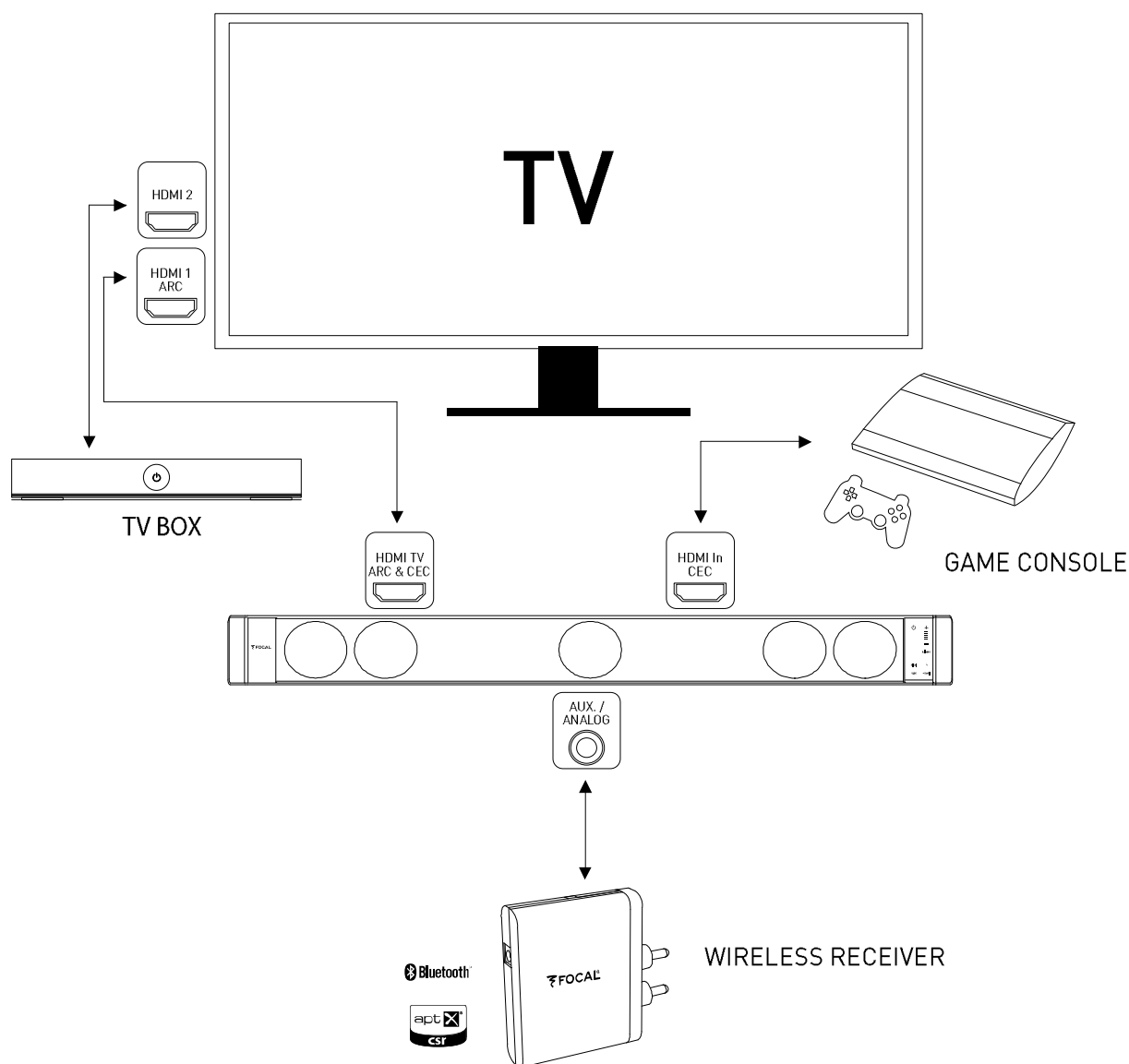


ゲーム機の音声を再生する場合は、DimensionのTV 入力端子を使用します。  
セットトップボックスの音声を再生する場合は、DimensionのHDMI™ In入力端子を使用します。  
同様に、コンピュータの音声を再生する場合は、AUX入力端子を使用します。



### 7.3.3. 接続例3

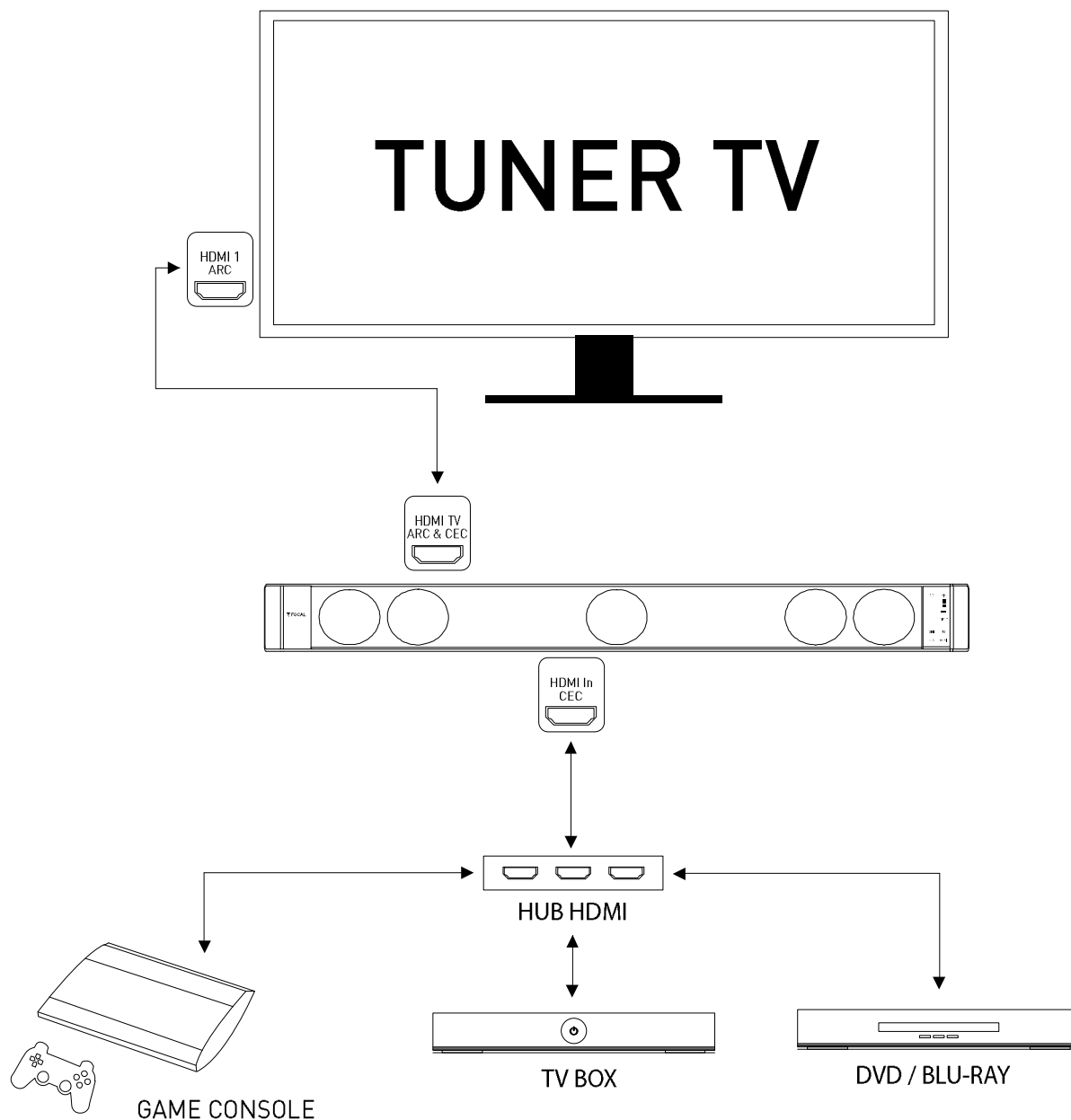
主にゲーム機でマルチチャンネルオーディオ/ビデオコンテンツをご覧になる場合は、ゲーム機をDimensionのHDMI™ In入力端子に接続します。次の図のように、Dimensionはその他のデバイスも接続することが可能です。



セットトップボックスの音声を再生する場合は、DimensionのTV 入力端子を使用します。  
ゲーム機の音声を再生する場合は、DimensionのHDMI™ In入力端子を使用します。  
ワイヤレスレシーバーの音声を再生する場合は、DimensionのAUX入力端子を使用します。  
この例では、Bluetooth aptX®テクノロジーを搭載する、Focal社製Universal Wireless Receiverを用いています。

### 7.3.4. 接続例4

HDMI™ケーブルを使用する、お持ちのすべてのデバイスをDimensionのHDMI™ In入力端子に接続させる場合は、HDMI™切換器をお買い求めいただくと良いでしょう。切換器は複数のHDMI™入力と一つのHDMI™出力を装備しています。



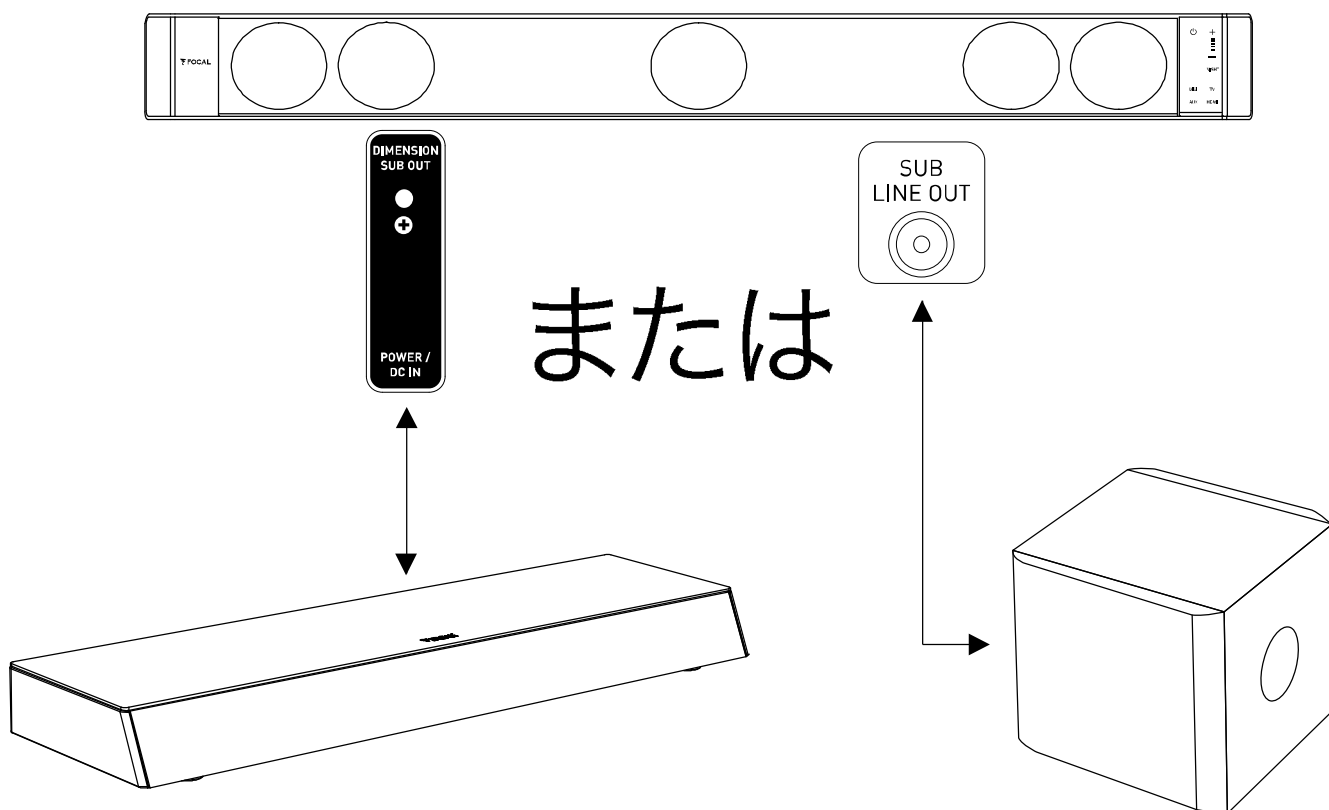
TVチューナーの音声を再生する場合は、DimensionのTV 入力端子を使用します。

HDMI™切換器に接続されたすべてのデバイスの音声を再生する場合は、DimensionのHDMI™ In入力端子を使用します。

## 7.4. サブウーファーの接続

Dimensionの背面パネルには、サブウーファーの出力端子が二つあります。一つ目のSUB LINE OUTは、あらゆるアンプ内蔵サブウーファーを接続することができます。二つ目のDIMENSION SUB OUTは、Dimension Subwoofer 専用の出力端子です。

設置の方法に関しては、Dimension Subwoofer 取扱説明書をご参照ください。



## 8. 使い方と機能

### 8.1. CEC(家電制御)機能

Dimensionは、CEC(家電制御)機能を搭載しています。お使いのテレビやデバイス(セットトップボックス、ブルーレイプレーヤー等)がこの機能に対応する場合は、お使いのテレビのリモコンでDimensionを制御することが可能です。制御される機能:

- 音量: お使いのテレビのリモコンで音量を調節すると、テレビがDimensionにこの情報を送信し、Dimensionは音量を調節します。
- 電源オン: お使いのテレビの電源をオンにすると、DimensionはHDMI™ TV入力端子を選択してオンになります。
- インプットセクター: HDMI™ In入力端子に接続したデバイスの電源をオンにすると、Dimensionはこの入力端子を選択します。

CEC(家電制御)機能を利用する場合は、お使いのテレビの同機能を有効にしてください。なおCECプロトコルの名称は、テレビのメーカーにより異なる場合があります。

### 8.2. 電源モード



Dimensionには3種類の電源モードがあります。

- パワーオンモード: Dimensionは選択されたデバイスの音声を再生します。
- エコモード: 消費電力を抑えます。HDMI™ CECとDIGI Inからの信号を自動的に検出します。
- スタンバイモード: 最小の消費電力(0.5ワット以下)。

20分間音声信号が検出されない場合、Dimensionは自動的にパワーオンモードからエコモードに切り替わります。Dimensionがエコモードの場合、HDMI™入力端子とDIGI In入力端子上で、CECコマンドおよび信号の検出が有効となっています。

- DIGI In入力端子上で信号が検出されると、Dimensionは自動的にパワーオンモードに切り替わり、DIGI In入力端子を有効にします。

- HDMI™ In または HDMI™ TV入力端子上でCECコマンドが検出されると、Dimensionは自動的に切り替わり、HDMI™ In またはHDMI™ TV 入力端子を有効にします。

注: お使いのテレビがCEC機能に対応していない場合は、HDMI™ 入力端子はコマンドを検出しません。その場合、同梱のリモコンをお使いいただくと、音量調節、電源の調節、インプット選択の各操作が可能になります。DimensionにいかなるHDMI™ケーブルも接続されていない場合のみ、スタンバイモードが可能となります。6時間動作しない状態が続いたとき、またはDimensionユーザインタフェースの  ボタンを長押し(2秒以上)した場合に、スタンバイモードに切り替わります。なお、Dimensionの電源をオンにするには、リモコンまたはユーザインタフェースの  ボタンを押してください。

### 8.3. テレビやオーディオ/ビデオデバイスの音声フォーマットの設定

最高の5.1ch体験をお楽しみいただくために、お使いのテレビやオーディオ/ビデオデバイスの音声出力フォーマットを設定する必要があります。実際のところ、デバイスのメーカーや製品の質により、Dimensionのオーディオ体験を低下させてしまうような音声設定が多数提案されています。

お使いのデバイスの取扱説明書のオーディオ設定メニューをご参照ください。メニューの中から次の二つのフォーマットを優先的にお選びください。


- ドルビーデジタル: 48 kHz、5.1chまで
- DTSサラウンド: 48kHz、5.1chまで


これらのフォーマットが提案されていなくても、お使いのデバイスは「自動」設定が可能かもしれません。その設定を使用すれば、お使いのデバイスがDimension用に最高の品質の音声出力フォーマットを選択します。

### 8.4. 音量の調節

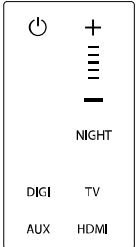
CEC機能を利用する以外にも、リモコンの+/- ボタン、または直接ディスプレイの+/- ボタンを押すことにより、Dimensionの再生音量を調節できます。

音量はDimensionの音量インジケータ上に表示されます。

リモコンの  ボタンを押すと、音量をミュート(消音)にすることができます。

Dimensionが消音モードの場合は、音量インジケータが点滅します。リモコンの  ボタンをもう一度押すと、ミュートが解除されます。

### 8.5. インプットセクター



リモコンの  ボタンを押すか、または直接Dimensionのユーザインタフェース上で、希望の入力端子を選択することができます。

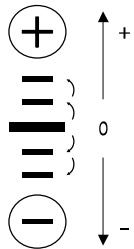
### 8.6. ナイトモード

Dimensionは、控えめな音量の「ナイトモード」を搭載しています。このモードを用いると、ムービーサウンドトラックのピーク音量は減少し、ダイナミックレンジが縮小します。ナイトモードはドルビーデジタルでエンコードされたコンテンツのみに有効です。

ナイトモードを有効にするには：


- リモコンの「Night」ボタンを押すか、または
  - 直接Dimensionのインタフェース上で「Night」ボタンを押す。
- ユーザインタフェース上で「Night」モードの表示が有効になります。


### 8.7. 低音レベルの調整



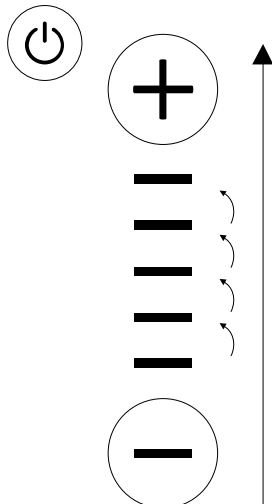
Dimensionやサブウーファースの低音レベルは、調整することが可能です。

低音レベルを調整するには：

- リモコンの  ボタンを押す。
- リモコン、または直接ユーザインタフェースの+/- ボタンを用いてレベルを調整します。

低音がご希望のレベルに達したら、リモコンの  ボタンをもう一度押すか、Dimensionが通常のディスプレイに切り替わるまで数秒間お待ちください。

### 8.8. オーディオ/ビデオの同期化(リップシンク)




お持ちの各種オーディオ/ビデオデバイス(プレーヤー、薄型テレビ、ゲーム機等)の質、これらのデバイスと取り交わされる情報の流れ、お持ちのテレビの映像信号の扱い方、これらの要素は全て、映像と音声の同期に影響を与えかねません。


Dimensionは二つの解決策を提供します。

- HDMI™ In 入力端子：オーディオ/ビデオ自動同期機能
- HDMI™ TV・Digi In・Aux入力端子：オーディオ/ビデオの同期の手動調整


HDMI™ In 入力端子上で同期しない場合は、以下の方法により強制的に手動で調整することが可能です。

オーディオとビデオを手動で同期させるには：

- 同期を調整したいデバイスを選択します。
- リモコンの  ボタンを押すと、選択したデバイスが点滅します。
- リモコンまたは直接ユーザインタフェースの+ / - ボタンを用いて、同期化するまでオーディオ/ビデオ間の遅延を調整します。

リモコンの  ボタンをもう一度押すと、同期モードが終了します。

同期時間は入力端子により異なるので、入力端子ごと、つまりデバイスごとに、オーディオ/ビデオ間の同期を調整することが可能です。

注：HDMI™ 上でプログラムされた遅延はデフォルト（工場出荷時の設定）、または自動同期を復元したい場合バー表示のボリュームは、すべて絶滅しているまで、リモコンまたはユーザインターフェース上のボタン  を押してください。

### 8.9. ライト機能

ユーザインターフェースのライトは通常オフになっています。リモコンの「Light」ボタンを押すと、ディスプレイが数秒間明るくなります。

## 9. トラブルシューティング

Dimensionを使用中に問題が発生した場合は、次の一覧表をご参照ください。発生した問題が一覧表に記載されていない場合や、提案されている対処法で問題が解決しない場合は、Dimensionの電源を切り、購入店またはFocal認定アフターセールスサービスセンターにご連絡ください。

症状	考えられる原因	対処方法	情報
Dimensionから音が出ない。スタンバイボタンは点滅し、音量ボタンの+が点灯している。	アンプの温度が過度に上昇し、オーバーヒート防止機能が作動した。	システムの電源を切り、温度が下がるまで1時間待ってからもう一度Dimensionの電源をオンにする。	/
Dimensionから音が出ない。スタンバイボタンは点滅し、HDMI™ TVボタンが点灯している。	過熱保護は、過電流による活性化されている。	システムの電源を切り、温度が下がるまで1時間待ってからもう一度Dimensionの電源をオンにする。	/
Dimensionから音が出ない。スタンバイボタンは点滅し、他のボタンが一つ、または二つ点灯している。	Dimensionのマイクロプロセッサが強烈な電氣的ダメージを受けて、動作を停止した。	システムの電源を切り、5分待ってからもう一度Dimensionの電源をオンにする。	/
音が出ない。	ケーブルの接続が正しくないか、一本以上のケーブルに欠陥がある。	接続が正しいかどうかを確認する。問題が解決しない場合はケーブルを取り換える。	ページ66
	希望するデバイスが選択されていない。	リモコン(inputボタン)またはユーザインターフェースを用いて、希望するデバイスを選択する。	ページ56と58
	音量が最小限に調節されているか、消音(ミュート)機能が有効である。	+/-ボタンでお好みの音量に調節するか、消音(ミュート)機能を無効にする。	ページ58
	お使いのオーディオ/ビデオデバイスは、Dimensionが認識しない音声フォーマットを伝送している。	お使いのデバイスの設定で、Dimensionが認識する音声フォーマットを選択する。	ページ73
	Dimensionに接続したHDMI™ デバイスは、HDCP(不正コピー防止技術)をサポートしていない。	HDCP(不正コピー防止技術)をサポートするオーディオ/ビデオデバイスを接続させる。	/

症状	考えられる原因	対処方法	情報
サブウーファーDimension Subから音が出ない。	接続が正しくないか、ケーブルに欠陥がある。	ケーブルが正しく接続されていることを確認する。	ユーザーマニュアル Dimension Sub
	「SUBWOOFER」セクターが正しく設定されていない。	設定セクターの「SUBWOOFER」が「11 - SUB LINE OUT」に設定されていることを確認する。	ページ65
SUB LINE OUT に接続したサブウーファーから音が出ない。	接続が正しくないか、ケーブルに欠陥がある。	ケーブルが正しく接続されていることを確認する。	ページ72
	「SUBWOOFER」セクターが正しく設定されていない。	設定セクターの「SUBWOOFER」が「12 - SUB LINE OUT」に設定されていることを確認する。	ページ65
	使用されるサブウーファーがオフモード、スタンバイ、または欠陥がある。	アクティブサブウーファーの状態を確認する。	/
HDMI™接続経由のCECコマンドが正常に機能しない。	お使いのオーディオ/ビデオデバイスで、HDMI™経由のCECコマンド機能が無効になっている。	Dimensionに接続したオーディオ/ビデオデバイスで、この機能を有効にする。	ページ73
	一つ以上のデバイスがこの制御機能に対応していない。	/	/
オーディオとビデオが同期化されていない。	お使いのテレビが自動同期機能を搭載していない。	Dimensionの手動の「SYNC」機能を使用する。	ページ74
リモコンが機能しない	Dimensionがリモコンの電波の届かない位置にあるか、視野角が広すぎる。	リモコンの電波の届く範囲は約7メートル、最大視野角は20度。	/
	リモコンの電池が切れている。	電池を交換する。	ページ58
テレビはARC(オーディオリターンチャンネル)機能を搭載しているのに、DimensionのTV入力端末が選択されていると音が出ない。	お使いのテレビのARC(オーディオリターンチャンネル)機能が無効になっている。	お使いのテレビの取扱説明書を参照し、オーディオリターンチャンネル機能を有効にする。	ページ66
	HDMI™ケーブルの接続が正しくないか、ケーブルに欠陥がある。	接続が正しいかどうかを確認する。問題が解決しない場合は別なHDMI™ケーブルを試してみる。	ページ66

## 10. 技術仕様

タイプ	5チャンネルのサウンドバー
スピーカー	5スピーカーコーンエクストラフラット紙 - 10センチメートル
RMSパワー	320 W6チャンネル以上
最大出力	450 W6チャンネル以上
周波数特性 (+/-6dB)	50 Hz - 25 kHz
入力	2 x HDMI™ (OUT/IN) Optical Toslink Digital アナログ Jack 3,5 mm
サブウーファー出力	Dimension Sub Out : 専用出力 Dimension Sub Sub Line Out : 低出力レベル一貫したすべて増幅さサブウーファー
機能	HDMI ARC™ (Audio Return Channel) HDMI CEC™ (Consumer Electronics Control) HDMI™入力のオートパワー 低音レベルの調整 オーディオとビデオの同期を調整する ナイトモード (Night) リスニングルームへの適応
家具上のサウンドバー (幅×奥行×高さ)	115,5 cm x 11,5 cm x 11,5 cm
サウンドバー壁 (幅×奥行×高さ)	115,5 cm x 6,5 cm x 14,7 cm
重量	5,5 kg